

JA全農ウィークリー

5
|
7
面

各県本部が農機展示会やフェア開催
共同購入トラクターやドローンに熱いまなざし

8面

8月31日は
「やさいの日」

東京・二子玉川で「JAベジカレッツジ」



東京・二子玉川で開かれた「JAベジカレッジ」
で展示された野菜に触れる幼児(8面)



TACの作物栽培総合技術研修で中玉トマト
成育調査(3面)



各県本部の農業機械展示会で注目を集めた共同購入トラクター（栃木県本部の第19回JAグループパワフル
アグリフェアで、5-7面）

- ## 2 東京消防庁・救急部長感謝状を受賞 (人事部)

世界牛病学会 2018で研究成果発表
(家畜衛生研究所)

- 3 営農管理システム「Z-GIS」の全国的な普及へ全国各地で説明会、操作研修会（耕種総合対策部）

TAC育成へ作物栽培総合技術研修 (耕種総合対策部)

- 4 「^{ばんさん}キッズの晩餐」10月7日放送スタート(広報部)

『家の光』11月号で神出理事長が生産者・
JA 職員と鼎談(広報部)

- 9 『JA全農ウィークリー』が創刊20周年(広報部)

- ## 10 JAズームイン(JAふかや)

- 11 県本部だより(山梨県本部)

- 12 冷凍食品ブランド「MAMAMA」に
旬八青果店とのコラボカー新登場
(総合企画部)

JAタウンショップ紹介

おいどんショップ鹿児島(株)Aコープ鹿児島



News!



東京消防庁・救急部長感謝状を受賞

「応急処置講習会」の連続開催実績が評価されました

人事部

感謝状を伝達した丸ノ内消防署の池田署長(前列右)と人事部の清水次長(前列左)と衛生委員会メンバー、人事部関係者



この一環で全農は9月10日、東京消防庁・救急部長から感謝状を授与されました。受賞理由は、救命講習の受講や指導を積極的に推進したことです。「応急処置講習会」(講師…丸の内消防署関係者、主催…JA

「救急の日」および「救急医療週間」をご存じですか? 救急業務と救急医療に対する理解と認識を深め、救急医療関係者の意識高揚を図ることを目的に、9月9日を「救急の日」、この日を含む1週間を「救急医療週間」と定めています。期間中、消防庁、厚生労働省、都道府県など全国各地で、各種行事が開催されます。



東京消防庁・救急部長の感謝状

ビル衛生委員会)の連続開催実績が評価されました。今年で8回目、受講生は延べ約280人になります。講習会では、人工呼吸や心臓マッサージ、AEDの使用方法等を、実技を交えながら学びます。

全農は、これからも安心な職場や地域づくりへの一助となることを目指し、受賞に恥じない取り組みを続けていきます。

News!



世界牛病学会 2018で研究成果を発表

展示ブースで疾病予防のための牛クリニック紹介

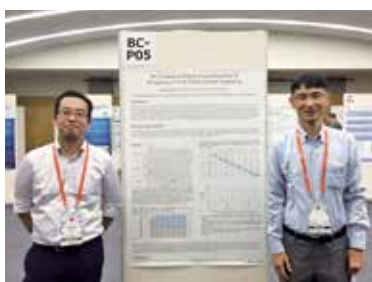
家畜衛生研究所



各国の来場者からも注目を集めた全農の展示ブース

第30回を数える世界牛病学会は、今回の札幌がアジアでは初めての開催です。世界66カ国から約1800人の獣医師や研究者が参加し、臨床、栄養、感染症、乳房衛生、群管理、薬剤耐性対策など29項目にわたるカテゴリーでの研究発表や講演などが行われました。

家畜研は、病原体の流行を把握するための方法である「牛マイコプラズマの遺伝子解析法の検討」および「牛呼吸器病一括検査(DNAチップ検査)の評価」を発表するとともに、全農の展示ブースを設け、農場での疾病予防のための牛クリニックを紹介しました。ブースでは全農が牛呼吸器病対策として推奨するDNAチップ検査について各国の来場者から質問、興味を示され、あらためてその有用性が実感されました。家畜研の研究者・クリニック担当獣医師たちとしても今回世界から得た情報を今後の研究や生産指導に生かしていきます。



家畜衛生研究所の研究者がポスター発表

全農家畜衛生研究所(家畜研)は、8月28日〜9月1日に札幌コンベンションセンターで開かれた世界牛病学会2018で研究成果を発表するとともに、展示ブースで全農クリニックの取り組みを国内外に紹介しました。



営農管理システム「Z-GIS」の全国的な普及へ

全国各地で説明会、操作研修会を開催

耕種総合対策部

広島県本部で開いた操作研修会



営農管理システム「Z-GIS」は、お試し版のダウンロード数が9月現在で4700件を超えました。Z-GISは、Excelに入力した情報（住所、圃場の所有者、栽培作物など）

全農は、今年4月にPCやスマートフォンで圃場情報を管理する営農管理システム「Z-GIS」をリリースしました。リリース以降注目を浴びており、全国各地で説明会や操作研修会を開催して、普及拡大を図っています。

と地図をひも付け、PCやスマートフォンで管理するシステムです。全農はJAや連合会の職員を対象とした説明会や操作研修会を開き、Z-GISの普及拡大を図っています。

すでに全国11カ所で開催し、約420人が受講しています。山口では、午前と午後の計5時間を掛けて操作研修会を開きました。また、広島では県本部が認定するJA施肥マスターに対してZ-GISを提供するという県を挙げての取り組みも始まっています。

今後は、ユーザーの声を反映して継続的にシステムを改善するとともに、活用事例を紹介することで、さらなる普及を進めていきます。

Z-GISのダウンロード
はこちらから



農業者のニーズに迅速に対処できるTACの育成を支援

実践的な技術習得目指し作物栽培総合技術研修

耕種総合対策部

全農は生産現場での営農・技術指導のさらなるレベルアップを図り、農業者のニーズに迅速に対処できる実践力のあるTACの育成を支援することを目指し、平成29年度から「作物栽培総合技術研修」を実施しています。

この研修は、日頃TAC活動を十分実践し、基礎的な施肥、防除などの知識を持ったJAのTACを受講対象とし、平成29年度は全国から5名のTACが受講しました。研修カリキュラムは、神奈川県平塚市の営農・技術センターで栽培の基本技術を学ぶ「栽培技術総合研修」と、県本部の実証農場で栽培実習を行う「作物別栽培技術研修」から成り立っており、作物栽培に関するより実践的な技術を習得することができます。

8月27日から31日にかけて、山形県本部の「園芸産地



山形県本部の園芸産地拡大実証研修農場で行われたトマト「アンジェレ」葉かき実習①と栽培の基礎知識について講義を熱心に聴く受講生

拡大実証研修農場」でトマト、パプリカをテーマにした「作物別栽培技術研修」が行われました。今回は2名のTACがハウスや選果施設などで葉かきや収穫などの作業を行い、栽培技術の習得に励みました。受講者からは、「習得した知識や技術を生かして、日頃の活動で実践したい」との意欲的な声をいただきました。

全農は30年度もこの研修を開催し、実践力のあるTACの育成の支援を図っていきます。「われこそは」と思うTACの積極的な受講をお待ちしています。

News!



「キッズの晩餐」(BS朝日)10月7日放送スタート

頑張る子どもたちをニッポンの食で応援!

広報部



番組キャラクター
おむすびくん



初回登場の相撲少年・西島くん

「キッズの晩餐」は、頑張る子どもたちが主役の番組です。甲子園を目指す野球少年、縄跳びが誰よりも得意な少女、田んぼの生きもの調査に熱く取り組む少年など……。番組オリジナルキャラクターの「おむすびくん」が全国津々浦々のキッズを訪ね、将来の夢や目標をインタビュー。

全農が提供する新番組「キッズの晩餐」(BS朝日)が、10月7日から放送を開始します。

番組概要

タイトル

キッズの晩餐

放送局

BS朝日(BS5チャンネル)

放送日時

毎週日曜日

午前11:55~12:00

(再放送:毎週木曜日

夜10:54~11:00)

番組では毎回、子どもたちに1俵分のお米をプレゼント。そのお米を使って、ご家族が子どもたちにおむすびを作って、家族みんなで「晩餐タイム!」。子どもたちの夢を「食」で応援します。

初回の放送では、横綱になることを目指し、日々稽古に励む相撲少年が登場。番組の合間には、今年の夏の高校野球中継で話題となった47都道府県のオリジナルCMも放送予定!毎週、JAタウンギフトカードが抽選で当たる視聴者プレゼントも実施します。ぜひご覧ください。

News!



『家の光』11月号で神出理事長が生産者・JA職員と鼎談

全農の自己改革の取り組みなどを解説

広報部



全農の自己改革などについて話す神出理事長
㊦と中江さん㊦、岡崎さん

この企画は、「知ってなっ得! チャレンジ全農」と題し、岡崎さんや中江さんから全農に関する意見や質問に対して、神出理事長が答える形式で、全農の取り組みについて解説するものです。

岡崎さんが肥料や農薬の価格が安くなることへの期待を述べたことにに対し、神出理事長は、全農とJA、生産者が協力し、肥料の銘柄集約により価格を引き下げたことなどを紹介しました。

JAグループの一般社団法人家の光協会が発行する月刊誌『家の光』11月号(10月1日発行)に、JA岡山の組合員岡崎伴明さん、同JA職員中江智子さん、全農の神出元一理事長による鼎談企画が掲載されました。



『家の光』11月号に掲載された鼎談企画「知ってなっ得! チャレンジ全農」

また、中江さんが人手不足の問題に触れたことに対し、全農が開発した「ZIG-1S」の活用で、農地の情報や栽培データなどを一括管理でき、生産者の負担を減らせることを紹介しました。

その他、全農の輸出拡大に向けた取り組みや、米の消費拡大策などについて解説しています。

ぜひ、『家の光』11月号をご覧ください。

各県本部が農機展示会やフェア開催

共同購入トラクターや農業用ドローンに熱いまなざし

秋田県本部

第31回秋田県農業機械大展示会

秋田県本部とJAグループ秋田は6月14～16日、「農業の進化をその目でキャッチ!!」をテーマに、秋田市の県立スケート場で「第31回秋田県JA農業機械大展示会」を開き、期間中約4400人の来場者でにぎわいました。

農機メーカー各社の最新鋭農業機械の展示をはじめ、種まきから調製・出荷作業までの一連の機械を展示する「園芸作物機械化一貫体系」コーナーを設け、エダマメ、ネギに関する機械の展示や栽培技術の提供を行った他、肥料や農薬、農産資材の展示、営農や農業資金に関する相談コーナーを設けました。

来場者の注目を集めた農業用ドローンの展示

また、農業機械の知識の習得を目的に全県JAのTAC担当者研修会も会場内で開き、ドローンや農業機械の自動化について学んだ他、エダマメ・ネギの生産振興に向けた取り組みについても研修しました。



福島県本部

アグリフェア2018 inふくしま

福島県本部は7月11～13日、郡山市のビッグパレットふくしまで、「アグリフェア2018 inふくしま」を開きました（今年で31回目、本会場では18回目）。

展示会では、価格を抑えた「共同購入トラクター」の紹介や、大規模生産者向けのフレコン出荷設備による出荷体系紹介コーナーを設置しました。また、各出展メーカーでは、営農管理をデータ・数値によって見える化した情報通信技術の搭載が際立っており、多くの農家が興味・関心を示していました。

今年度は3日間で3308人が来場し、終日にぎわいました。



来場者の関心を集めた共同購入トラクターの紹介

茨城県本部

ダイナミックフェア2018

茨城県本部は7月7～9日、茨城町の県本部農機総合センターで第44回農機・生産資材大展示会「ダイナミックフェア2018」を開き、期間中に7200人以上が来場しました。

「スイッチ！稼ぐ未来へ」をテーマに、共同購入トラクターや最新営農技術などを紹介しました。

また、各メーカーのブースやミニ講習会で、「セルフ点検のススメ」と題し、点検の重要性やポイントを来場者に伝えました。この企画と連動して、初めて「工具コーナー」を設置し、幅広い情報提供に努めました。



初めて設置した「工具コーナー」は来場者だけでなく関係者も興味津々

栃木県本部

第19回JAグループ栃木パワフルアグリフェア

栃木県本部は7月21、22の両日、宇都宮市内でJAグループ栃木の総力を結集した農機展示会、「第19回JAグループ栃木パワフルアグリフェア」を開きました。

目玉は「共同購入トラクター」の展示。他にもメーカー各社の最新農業機械など約1500台の展示や中古農機の情報提供、肥料・農薬や園芸資材の低コスト商品の展示などを行いました。

また、栃木県産の食材を使用した商品の提供や、地元栃木のプロバスケットボールチーム「リンク栃木ブレックス」の選手によるトークショーなどのステージイベントも行い、約5800人が来場し大盛況となりました。



系統独自型コンバインも展示



各県本部はそれぞれ、最新鋭や中古農業機械の展示・フェアなどを開きました。来場者から共同購入トラクターや農業用ドローンの展示、実演が注目を集めていました。【各県本部】

群馬県本部

アグリマシニングフェア
2018

群馬県本部は県内JAグループ協力のもと、7月14、15の両日、前橋市の県本部総合センターで「アグリマシニングフェア2018」(第42回農業機械大展示即売会)を開きました。約40社の企業・団体が出展し、趣向を凝らした展示や実演で最新技術をPRしました。

今年は、生産現場の声を反映した共同購入トラクターの展示や農業用ドローンのデモフライトなども行いました。2日間で約5300人が来場し、大いににぎわいました。



農業用ドローンのデモフライトも

埼玉県本部

夏の農機大展示会

埼玉県本部は県内JA、県JA農機協議会、取り扱いメーカー各社と各連合会の協賛で7月20、21の両日、加須市の「むさしの村特設会場」で「夏の農機大展示会」を開きました。トラクター、田植え機、コンバイン、乾燥機などの多くの新型機種や中古農機を展示し、2日間で約1700人が来場しました。

開会で若林龍司会長は「来場者には懇切丁寧な商談をお願いしたい。また、JAグループでは、生産者の所得増大に向け、自己改革の取り組みをさらに加速させ、完遂させていく」とあいさつしました。

各コーナーでは、各社新機種の特徴などを熱心に聞き入る来場者の姿が多く見られ、活気ある展示会となりました。

特に、7月に発表した話題の共同購入トラクターが非常に好評で、来場者の関心を集めました。



共同購入トラクターに興味を持つ来場した皆さん

神奈川県本部

農業機械展示予約会

神奈川県本部は8月3、4の両日、平塚市の田村事務所で開催された「農業機械展示予約会」を開き、2090人が来場しました。各メーカーのブースでは相談者のニーズに合った農機の提案が受けられ、併設会場でのミニ講習会や中古農機入札販売会にもにぎわいを見せました。

今回の展示会推進期間に合わせ、農機購入支援対策を実施し、受注実績は計画比105%となりました。

今後も神奈川県本部は「JAグループ神奈川県推奨型式」を拡充するとともに、生産コスト低減に向けた推進を積極的に行います。



JAグループ神奈川推奨型式の展示コーナー

富山県本部

農機フェア2018

富山県本部は7月7、8の両日、富山市の富山産業展示館で「農機フェア2018」を開き、農機メーカー約35社が大型農機から小型農機まで約1000点を展示しました。

今回は、「生産コスト低減・生産性向上」をテーマとし、先日発表された共同購入トラクターや最新鋭ドローンによるデモンストラクションが注目を集めました。会場は終日にぎわい、2日間で約6300人が来場しました。



終日にぎわった農機フェア2018

岐阜県本部

第26回岐阜県 JA 中古農機フェア

岐阜県本部は7月13、14の両日、大野町のJAいび川大野営農センターで県JA協賛のもと「第26回岐阜県JA中古農機フェア」を開きました。

中古農機の需要とコスト低減意識の高まりに対応する目的で行い、両日とも県内のJAグループから出展された整備済みの中古農機約80台を展示・販売しました。2日間で約560人の来場者があり、にぎわいました。



担当者から説明を受ける来場者

鳥取県本部

3会場で農機サマードリームフェア2018

JAグループ鳥取は6月30日、7月1日にJA鳥取いなば、7月6、7の両日に（株）JA中央サービス、7月14、15の両日にJA鳥取西部の3会場で農機サマードリームフェア2018を開きました。

各会場では最新農業機械や中古農業機械の展示をはじめ、鉄コーティングのコーナを設けコスト低減、省力化の情報提供を行いました。3会場で合わせて約3500人が来場しました。



最新農業機械や中古農業機械を展示

山口県本部

農機ふれあいフェア2018

JAグループ山口は7月6、8日、山口市阿知須の山口きらら博記念公園多目的ドームで「農機ふれあいフェア2018」を開き、約3300人の組合員が来場しました。

今年度も、「低コスト・省力化・新技術のご提案」をテーマに、農機具メーカー各社による最新機械の展示コーナーをはじめ、営農に関する相談、各連合会などによる農機具の購入資金に関する相談、健康チェックなど、生活や営農を支援するコーナを出展するとともに、生産者の声を反映し、機能を絞り込んだ「共同購入トラクタ」の特設コーナーを設け、来場者へアピールしました。



多くの人が訪れた農機ふれあいフェア

大分県本部

JA 農機フェア2018

大分県本部とJAグループ大分は8月29、31日、大分市内の大分銀行ドーム（ホワイエ・ドーム内）で「JA 農機フェア2018」を開き、3日間で約2500人が来場しました。

会場にはコンバインやトラクターなど大型の農業機械から刈り払い機や小型管理機まで各種農機の展示・販売が行われた他、肥料農薬の販売ブースや農業に関する相談コーナーが設置されました。

JA自己改革コーナーでは話題の共同購入トラクターや野菜用レンタル農機の展示コーナーを設け、新たな農業機械の購入方法として期待される「残価設定型リース」の紹介も行いました。

JA自己改革コーナーに共同購入トラクターを展示



また、ドローンの模擬飛行をはじめ、各メーカーブースではICT・省力化技術などの新技術が紹介され、毎年好評の米の食味検定サービスも行われました。お買い上げのお客さまを対象にしたお楽しみ抽選会も実施するなどフェア期間中、大いににぎわいました。

8月31日は
「やさいの日」東京・二子玉川で「JAベジカレッジ」
国産やさいの魅力・おいしさ新発見！

JAグループは、毎年8月31日の「やさいの日」を中心に国産野菜の消費拡大の取り組みを全国各地で展開しています。全農は8月25、26の両日、JA全中と共催で「JAベジカレッジ」二子玉川キャンパスを東京都世田谷区の二子玉川ライズ・ガレリア、二子玉川 蔦屋家電・ダイニングで開きました。夏休み最後の週末ということもあり、ファミリー層を中心に2日間で約3万3000人が訪れる盛況ぶりでした。【園芸部】

野菜電池を作る
ワークショップで
音楽を聴く子どもたち

涼を呼ぶやさい氷柱

無水電気鍋を
使用した「ラタトゥイユ」を
実演・試食

ガ
レリア会場では、やさい苗、やさい氷柱、やさい巨大オ

ブジェの展示をはじめ、フジパン(株)・mizurio(株)の共催による「野菜畑のドーナツ」を食べながら「おやさいクレヨン」でのライブペインティング、野菜の収穫体験や、野菜に関するクイズの答えになる野菜を釣り上げる野菜釣り、野菜電池を作るワークショップなど、野菜を「見る」「触れる」「描く」といった体験を通して、親子で楽しみながら野菜の知識に触れることができる企画を行いました。

また、JAファーマーズマーケットによるJAまるしえでは、2店舗（JA東京中央、JAふくしま未来）が青果物や加工品を販売し人気を集めました。

一方、蔦屋家電・ダイニングでは、シャープ(株)、JA全農青果センター(株)との共催でシャープ(株)の調理家電を使用した国産野菜の加熱料理レシピ紹介・調理実演・試食を行いました。家庭で「簡便でおいしい」国産野菜の食べ方の提案と

もに、全農の紹介、アンジェレミントマトのPRを行いました。

調理実演では、オーブンを使用した「焼き野菜」や「蒸しとうもろこし」に加え、無水電気鍋を使用した「ラタトゥイユ」を参加者に実演・試食していただきました。特に水を一切使わず生のトマトをベースにした「ラタトゥイユ」の出来上がりには驚きの声が上がリ、アンケート結果ではほとんどの参加者から「大満足」「満足」との評価を得ることができました。

全農は、今後もこうした企画を積極的に開催し、国産青果物の消費拡大に取り組みます。

野菜釣りを
楽しむ子どもたち

『JA全農ウィークリー』創刊20周年

全農の今を伝え続ける

『JA全農ウィークリー』は、今号(10月1日号)で創刊から20周年を迎えました。20年間のJA全農ウィークリーの歩みを振り返ります。

【広報部】

平成10年、県連との統合を機に創刊

『JA全農ウィークリー』の前身は、『全農通信』です。『全農通信』は、全購連と全販連の合併により全農が発足した昭和47

『JA全農』として発足したことを機に、『JA全農ウィークリー』としてリニューアルし、創刊しました。週刊の形は、『全農通信』の時代から続くものです。

創刊当初から続く「JAブroomイン」

「県本部だより」

JAの取り組みを紹介する



『JA全農ウィークリー』創刊号(平成10年10月1日号)

JAタウンシヨップ紹介は平成13年から

毎号、最終ページに掲載している「JAタウンシヨップ紹介」。初回の掲載は、JAタウンのオープンから1カ月後の平成13年11月26日号でした。本誌はこれからもJAタウンの今を伝え続けます。

平成30年4月からWeb版スタート

今年4月からは、『JA全農ウィークリー』のWeb版を開設しました。それまでも全農ホームページで電子ブックやPDF版



スマートフォンにも対応したJA全農ウィークリーWeb版



を公開していましたが、Web版では記事そのものをWebページに掲載することで、読みやすく、検索しやすくなりました。スマートフォンにも対応しています。

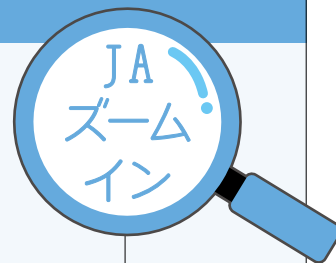
また、同時に公式Twitterアカウントもスタートし、Web版の更新情報を発信しています。ぜひフォローをお願いします。

『JA全農ウィークリー』は創刊以来、JAを中心に約4万部を発行してきました。これまでに20年にわたり発行してこられたのは、全国のJA・連合会各位、ならびに関係者の皆さまの支援・ご協力のたまものであり、

JA全農ウィークリーの送付先別発行部数(現在)

JA	26,000部
県連・県 JA・全国連	1,600部
全農・グループ会社	15,000部
その他(メディア、行政等)	400部
計	43,000部

厚くお礼申し上げます。『JA全農ウィークリー』はこれからも全農の今を伝え続けます。引き続き、『JA全農ウィークリー』をよろしく願っています。



国内最大級、6ラインのきゅうり選果機

販促キャンペーン隊も笑顔でPR

JAふかやは都心から約70キロ圏にあり、管内は平野部から南西の山間地域まで広がり、地域の特性を生かした多彩な農畜産物を首都圏中心に供給しています。

市場で注目される
深谷産きゅうり

JAふかやは数多くの農畜産物を取り扱っており、中でも、主要品目のきゅうり

は、国内最大級の6ラインの選果機で出荷しています。量販体制と品質の均一化を充実さ

せ、生産者の労働時間の削減に貢献することを目的に選果場の再整備を行い、今年で6年目を迎えました。

選果場は、約170人の生産者が利用しています。最盛期には全ラインがフル稼働し、約100人のパートが1日に1万キロ（1キロ5キロ）、多い時には1万2000キロを出荷します。箱詰めされたきゅうりは首都圏を中心に名古屋や盛岡などにも出荷します。

※1ラインの処理能力は1時間に2500キロ。

全国の主産地と手携え
首都圏のスーパーで販促

出荷が始まると、キャンペーン隊同行のもと、量販店やイベントなどで販売促



フル稼働する6ラインの選果機



コンベアに乗せられ、次々に選果されるきゅうり

JAふかや (埼玉県)



進活動を行っています。

JAグループが「いいきゅうりの日」と定めた毎月19日には、主力産地の各都道府県のJAグループが、首都圏に展開するスーパーの協力のもと、各店舗で試食宣伝を行っています。みずみずしさや食感の良さをアピールし、キャンペーン



スーパーでそろいの法被を着てPRするキャンペーン隊



毎月19日の「いいきゅうりの日」販促活動

ン隊の明るい笑顔で、消費拡大を呼び掛け、生産者と消費者をつなぐ懸け橋になれるよう宣伝しています。

JAふかやは、丹精込めて生産されたさまざまな管内農畜産物の消費拡大と、産地PRを積極的に展開して、農業者の所得増大を目指しています。

概要	平成30年3月31日現在
正組合員数	7274人
准組合員数	6151人
職員数	244人
販売品取扱高	74億8千万円
購買品取扱高	36億6千万円
貯金残高	1549億6千万円
長期共済保有高	4528億3千万円
おもな農畜産物	米、麦、キュウリ、ネギ、 ブロッコリー、生乳、 ユリ、チューリップなど

県本部 だより

山梨県本部

自己改革 実践中!

県オリジナル品種 ブランド化を推進 市場で桃「夢みずき」、ブドウ「甲斐のくろまる」PR

います。

有望な4品目、10品種を
品種登録・商標登録出願中

山梨県本部は「山梨県オリジナル品種ブランド化推進会議」（小池通義会長Ⅱ J A 山梨中央会副会長）と連携し、県オリジナル品種のブランド化に力を注いで

同会議は、山梨県本部営農企画課を事務局に山梨県、県内 J A、（公）県果樹園芸会、県果樹苗木生産者組合、J A 山梨中央会ほかを会員に、平成14年に発足しました。山梨県のオリジナル品種の開発と生産振

興、販売強化に重点をおいたブランド化を推進しています。現在、県のオリジナル品種としては、桃の「夢みずき」、スモモの「皇寿」、オウトウの「甲斐ルビー」、ブドウの「甲斐のくろまる」「甲斐ベリー3」など4品目、10品種が品種登録または商標登録出願中で、苗木供給も行っています。

今年同会議の検討部会が東京都中央卸売市場大田市場で「夢みずき」と「甲斐のくろまる」の試食宣伝会を行いました。

市場関係者が試食
高い評価に手応え

7月3日に行った「夢みずき」の試食宣伝会では糖度・サイズなど一定基準を満たした「夢みずき」を



大粒で着色が良いブドウ「甲斐のくろまる」と試食を勧める山梨県本部職員

専用の化粧箱に入れ、展示しました。化粧箱には「糖度14%度Over」と記され、他の品種と差別化し、おいしさをアピールしました。味を確かめた関係者からは「着色が良く、大玉で見栄えが良い」、「どれを試食しても食味が良く、糖度が高い」と高評価を得ました。

「夢みずき」は平成26年

に品種登録され、3年前から数量はわずかですが市場出荷されています。平成24年度に試験栽培を始めてからこれまでに約1万5000本の苗木を供給、成園化が進み出荷量が増えていく中、山梨県の主力品種となる桃として期待が高まります。

「甲斐のくろまる」は、近年の高温傾向で黒系ブドウの着色不良が懸念される中、大粒で着色が良いのが特長です。8月3日に行った試食宣伝会では、試食会のアナウンスが入ると今年の味を確かめようと大勢の市場関係者が詰め掛け、事務局は品種の特長などを丁寧に説明しながらPRしました。市場出荷が始まり今年で5年目を迎えた「甲斐のくろまる」は、市場関係者の認知はまだ低いことから、同会議は今後もこのような宣伝会などを通じて認知度を高めていくことで山梨県オリジナル品種の販売強化につなぐべく取り組んでいきます。

子会社(株)ピュアディッシュが
手掛ける冷凍食品ブランド
「MAMAMA」

『旬八青果店×MAMAMA コラボカレー』が新登場

全農子会社・(株)ピュアディッシュは9月10日、冷凍食品ブランド「MAMAMA(ままま)」の商品第3弾『旬八青果店×MAMAMAコラボカレー』の販売を始めました。

今回は、全農の出資先である(株)アグリゲートが運営する八百屋「旬八青果店」が監修した野菜を使用した、コラボレーションカレー(2種類×2パック)です。

【総合企画部】

『旬八青果店×MAMAMAコラボカレー』



セット内容

旬八青果店監修

ごろごろ野菜で食べるビーフスパイシーカレー
[270g(野菜110g、ビーフカレー160g)×2]

旬八青果店監修

ごろごろ野菜で食べるチキンクラシックカレー
[270g(野菜110g、チキンカレー160g)×2]

小売価格:3600円(税別) ※各2パック入り計4パック



「MAMAMA(ままま)」とは、「しんせんそのま」
できたてそのま おうちでそのまをコンセプト
に、本格料理が手軽に家庭で味わえる、冷凍食品
ブランドです。

新商品発売を記念して、お得な20%オフクーポンも発
行しました!

クーポンコード: weekly1001(10月末日まで1回限り有効)
お土産やプレゼントに、みなさまこの機会にぜひお買
い求めください。

お求めは、
MAMAMA
サイトから!



「食と農」の情報を広く消費者へ! スマホアプリを公開中

JA全農のイベントや新商品に関する最新情報が
さらに充実! 作動環境: スマートフォン iOS8以上 Android4.3以上



JAタウン ショップ紹介

JAタウン |

検索
クリック

おいどんショップ鹿児島(株)Aコープ鹿児島



JAタウンは
こちらから



本場種子島産 安納こがね(1.5*個).....2400円

「安納こがね」は黄色がかった皮とオレンジ色の果肉が特徴で、一般的安納芋(紅)に比べて、皮が薄く傷つきやすいため生産地の種子島でも生産者が少なく、希少なお芋です。

お芋本来の甘みを引き出すために1カ月以上熟成させてからお客さまにお届けしています。

お勧めの食べ方はやっぱり「焼き芋」! ねっとりとした食感と極上の甘さは「安納こがね」でしか味わうことができません。じっくりと時間をかけて焼いた方が甘みを引き出されますので、電子レンジでの急速加熱は厳禁です。

ぜひ、この機会にお召し上がりください。

なお、ご紹介した商品は、10/12(金)まで、FAXでもご注文を承ります(ご自宅宛代金引換のみ)。※天候などによりご希望に沿えない場合があります。

【ご注文方法】①商品名、規格、数量②郵便番号③住所④氏名⑤電話番号⑥FAX番号をご記入のうえ、FAX番号03-5218-2517までご送信ください。商品代金の他、お届け先により送料がかかります。

JA全農のインターネット
ショッピングモール

▶ご注文は <http://www.ja-town.com>

▶お問い合わせは shop@ja-town1.com

※本誌を通じていただいた注文などで取得した個人情報、商品等の発送にのみ使用します。